



(1,500円)

実用新案登録額 (/).

昭和46年9月25日

特許庁長官 殿

通

1 考案の名称

チヨクリユウ
直流ブラシレスモータの構造

2 考案者

居所 名古屋市瑞穂区堀田通9丁目35番地
ブラザー工業株式会社 内
氏名 ヤマモト タケミチ

3 実用新案登録出願人

住所 名古屋市瑞穂区堀田通9丁目35番地
(526) 名称 ブラザー工業株式会社
代表者 取締役社長 ヤマモト タケミチ

4 代理人

(467) 居所 名古屋市瑞穂区堀田通9丁目35番地
ブラザー工業株式会社 内
(0063) 氏名 アオシマ ショウゾウ

電話 名古屋(052)811-2511番(大代)

5 添附書類の目録

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 譲渡証 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通 |
| (5) 願書の副本 | 1 通 |



方式 蔵持
審査

48-43109-01

48-43109-01

48-43109-01

明 細 書

考案の名称

直流ブラシレスモータの構造

実用新案登録請求の範囲

夫々永久磁石を有し、モータ軸に固定され互い
に対向する一対の回転子と、

この回転子を駆動するための複数個の界磁コイ
ルと、

この界磁コイルが夫々間隔をもつて配置され、
前記一対の回転子に接する事なくその間に設置さ
れた平板状の固定子と、

前記回転子の位置検出のため、その回転に連動
する回転制御用永久磁石と、これに対向して前記
固定子平板上に前記界磁コイルの各々に対応して
配置された磁気抵抗効果素子とよりなる検出装置
とを具備してなる直流ブラシレスモータの構造。

考案の詳細な説明

本考案は磁気抵抗効果素子の使用により回転制御を行なう様にした直流ブラシレスモータの構造に関し、特に組立の簡単なコンパクトタイプのもので作る事を意図したものである。

以下図面を参照して本考案を詳細に説明する。

第1図において、1, 2は互いに対向する一対の回転子で、夫々モータ軸3に固定された円盤状鉄板4, 5上に6個の扇形状の回転子用永久磁石と3個の回転制御用永久磁石とが配置されている。回転子1を例にとつて説明すると第2図に示す様に円盤状鉄板4の軸への固定用穴4aを中心として各々中心角が 60° の扇形状永久磁石11, 12, 13, 14, 15, 16が配置されており、これらの内、永久磁石11, 13, 15はN極で、磁石12, 14, 16はS極を有している。更に、これらの外側には3個の同一極性の永久磁石17, 18, 19が、夫々同一円周上で等間隔に配置さ

れ、これらの円周方向の長さは各々、中心角が 40° よりやや大きめに、しかもこれらの反時計方向端部が前述したN極の磁石11, 13, 15のそれに比べ、やや反時計方向に入り込む様に配置されている。

尚、この回転子1に対向する回転子2は対応する永久磁石がこれらと全て異極である様に配置された点を除けばこれと同様の構成である。

6はこれらの対向回転子1, 2間に、これらと接しない様に設置された固定子用プリント基板であり、第3図に平面図で示す様にこの基板6上には、モータ軸3用の貫通孔6aを中心として3個の扇形環状界磁コイル61, 62, 63及び3個の磁気抵抗効果素子64, 65, 66が配置され、これら全体で固定子を構成している。この界磁コイル61, 62, 63は夫々中心角が 60° をなし、順に 40° , 40° , 100° の間隔をもつて配置されており、一方磁気抵抗効果素子64, 65, 66

は前記 10° の間隔内で、磁気抵抗効果素子 65 をこの間隔の中心に配し、これを挟んで素子 64、66 がこれと夫々 4° の間隔をもつて同一円周上に配置されている。更に、この基板 6 上の界磁コイルと磁気抵抗効果素子との相互の電氣的接続は、コイル 61 と素子 64、コイル 62 と素子 65、コイル 63 と素子 66 とが夫々この基板 6 上にプリント配線されているモータ駆動用電子回路（図示せず）内で対応関係を有している。

尚、この 3 個の界磁コイルは前記回転子の回転子用永久磁石に対応する位置に設けられ、又磁気抵抗効果素子は前記回転制御用磁石と共働して、このモータの回転検出装置となるべき位置に設けられている。

次に、モータの動作について説明する。

先ず最初に回転子と固定子が夫々、第 2 図・第 3 図に示した状態（即ち、第 2 図に第 3 図をそのまま重ねた状態）で、前述した電子回路を動作さ

せると、固定子用基板 6 上の 3 個の磁気抵抗効果素子の内、素子 6 5 だけが回転子 1 上の回転制御用磁石 1 9 による磁界を受け界磁コイル 6 2 に励磁電流が流れる。このため、回転子 1 上の前記回転子用磁石 1 1, 1 2 が夫々この扇形環状界磁コイル 6 2 の方向に引かれ、従つて全体として回転子 1 は第 2 図中矢印 A 方向の回転力を受ける。

/ 字訂正

その後、回転子 1 が約 4 ° 回転すれば、前記回転制御用磁石 1 9 が前記磁気抵抗効果素子 6 5 に対応する位置をはなれ、素子 6 6 の対応位置に移動しこれに磁界を与える。従つて今度は界磁コイル 6 3 に励磁電流が流れ、回転子用磁石 1 2, 1 3 がこの界磁コイル 6 3 に引かれて回転子 1 は先と同様な方向に連続して回転する。更に、回転子 1 が約 4 ° 回転すれば前記回転制御用磁石 1 9 が前記磁気抵抗効果素子 6 6 に対応する位置をはなれ、今度は素子 6 4 が磁石 1 8 による磁界を受ける様になり、界磁コイル 6 1 が前記磁石 1 4, 1 5 を

引き、回転子 1 は前述と同一な方向に回転力を受ける。

この様にして回転子 1 は同一方向の回転力を受け、回転子 1 の一回転中、各磁気抵抗効果素子は順次 3 個の前記制御用磁石による磁界を受けるので、各界磁コイルには都合各 3 回の励磁電流が流れ、夫々回転子が駆動される。

尚、上述した 3 個の界磁コイルの内、界磁コイル 61, 63 の電流方向とコイル 62 のそれとは互いに逆方向となる様に回路接続されている。

又、前述した様に各回転制御用永久磁石の中心角が理論的設計値の 4° よりやや広めにとつてあるのは或界磁コイルによる回転力が消滅し切らない内に次の界磁コイルに励磁電流を流し、円滑な回転運動を行なわせるためのものである。

以上詳述した様に本考案に係る直流ブラシレスモータは、一對の対向回転子上に夫々対向する回転制御用永久磁石を設け、これらの対向回転子間

に接する事なく設けた平板状固定子用基板上に界磁コイル、磁気抵抗効果素子及びモータ駆動用電子回路のプリント配線を全て具えた構成であり、この事は例えば検出用コイルと遮蔽板とによる位置検出装置を備えた従来のモータに比べ全体として極めて小型で薄型のモータを実現し得、しかも磁気抵抗効果素子を界磁コイル相互の間隔内に配置した事により、基板全体の利用率が高く、基板も比較的小型のものでよい。更にこの素子に磁界を与えるべく制御用磁石の中心角についても上述した様な適切な配慮がなされており、このモータを能率よく回転可能にしている。

この様に本考案は、磁気抵抗効果素子の利用により全体の構成をコンパクトなものにし、組立作業が簡単になり、モータの超小型化と薄型化を可能にする等その産業上奏する効果の極めて大なるものである。

図面の簡単な説明

第 1 図は本考案に係る直流ブラシレスモータの断面略図、第 2 図はその回転子上の永久磁石相互の配置を示す図、第 3 図は固定子上の界磁コイル及び磁気抵抗効果素子の配置を示す図である。

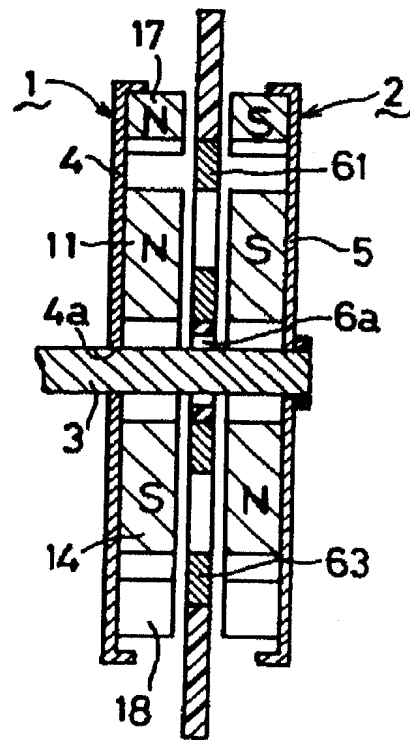
図中、1, 2 は対向する回転子、3 はモータ軸、11, 12, 13, 14, 15, 16 は前記回転子 1 上の回転子用永久磁石、17, 18, 19 は同じく回転制御用永久磁石、6 は固定子用プリント基板、61, 62, 63 は夫々この基板上に配置された界磁コイル、64, 65, 66 は同じく磁気抵抗効果素子である。

実用新案登録出願人

ブラザー工業株式会社

代理人 青島祥造

第1図



48-43109-10

大用新業登録出願人 フラザー工業株式会社

48-43109-10

48-43109-10

區
3
集

